

地域に根ざした新たな国際理解教育

黒澤 眞爾

1. はじめに

筆者が勤務する関東国際高等学校は、外国語科の中に英語、中国語、韓国語、ロシア語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語の各コースがあり、それぞれ他校にはないユニークな外国語教育活動を実施している。2011年度より地域の国際化に寄与することを目的に東京都渋谷区教育委員会及び渋谷区内の中学校と共同し、様々な外国語教育及び国際理解教育事業を展開してきた。ここではそのいくつかを紹介し、地域に根ざした新しい外国語教育・国際理解教育のありかたを考えていきたい。

2. 渋谷区内中高連携事業

2.1 SHIBUYA English CAMP

2011年より毎夏に渋谷区教育委員会と共催で、2泊3日のイングリッシュキャンプを開催している。渋谷区内の各中学校から応募してきた中学生約30名と本校の生徒10名が参加し、本校ネイティブ教員の指導のもと、「楽しく、誰もが参加でき、英語コミュニケーションが好きになる」ことを目標に、グループごとに様々な英語活動をおこなっている。参加した中学生の反応は非常に良く、「最初は英語で話しかけられても答えられなかったが、高校生の先輩たちが優しく接してくれて少しずつ話せるようになった。」「英語は苦手だったけど少し英語に自信を持つことができた」といったアンケート結果が出ている。

また、2015年10月には、渋谷区立笹塚中学校と共同で2年生33名を対象とした「英語宿泊体験」を1泊2日で実施し、こちらも好評であった。過去5年間の成果を踏まえ、渋谷区教育委員会と本校は、今後も年数回ずつ同型のイングリッシュキャンプを開催することを予定している。

2.2 各国交流訪問団受け入れ事業

2015年11月、本校と原宿外苑中学校が渋谷区教育委員会の協力のもと、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターが主催するタイ教員訪日団の受け入れ事業をおこなった。公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターは、ユネスコの基本方針に沿って、アジア太平洋地域諸国の文化の振興と相互理解に寄与することを目的に設立された団体であり、現在は、対象国間における教育関係者の人物交流や、識字等の教材開発を主な事業としている。ユネスコ・アジア文化センターがタイ教員団を受け入れるのは今回が初めてであり、タイ語教育及び交流活動に実績がある本校に事業実施に向けての協力依頼があった。本校では、タイとの国際交流について見識の高い渋谷区立原宿外苑中学校の白倉昌裕校長と相談し、共同で学校訪問を受け入れることにした。

白倉校長は、2010年より3年間、タイ・バンコク日本人学校に副校長として赴任し、現地で様々な教育改革を成功させ、高い評価を得ている。帰国後は、渋谷区内の中学校の校長として自身の経験を活かし質の高い国際理解教育を実践している。今回のタイ教員団受け入れに際しても、事前にタイ語会話やタイ事情を中学生たちにレクチャーすることで、生徒たちはタイの先生たちと積極的なコミュニケーションをとることででき、交流会は大成功だった。

2.3 多言語出張授業

渋谷区内の中学校では、国際理解教育の一環として、多言語体験授業を年に数回実施している。2015年度は渋谷区立松濤中学校に本校のタイ語、ベトナム語の教員が赴き、2年生2クラスを対象に、初級会話の体験授業を実施した。中学生たちは初めて接するタイ語、ベトナム語の声調を伴う発音に若干とまどいつつも、徐々に慣れ、授業の後半では殆どの生徒が積極的に授業に参加できていた。筆者も数年前、同中学校で韓国語の授業を担当したが、英語以外の外国語に慣れ親しむこのような授業は、言語を通じて世界の多様性に触れるという意味で、非常に有意義な国際理解授業であると感じた。今後も区内の各中学校と調整しつつ、様々な言語に触れる機会を提供していきたいと考えている。

3. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて

上記以外にも、渋谷区域で行われる様々な行事に本校の生徒が参加し、地域の中学校との交流活動は年々盛んになってきている。2020 年は東京でオリンピック・パラリンピックが開催される。渋谷は新国立競技場が建設されるエリアでもある。オリンピック・パラリンピック開催時には海外から多くの観光客及び関係者が訪れることが予想される。その際、渋谷在住の青少年が、日頃の学びの成果を発揮し、実り豊かな交流活動ができるよう、本校と渋谷区は互いに手を携えて、多様な言語教育及び国際理解教育を推進していく予定である。

(関東国際高等学校)

New Community-Based International Understanding Education Program

Shinji KUROSAWA

Kanto International Senior High School and Board of Education of Shibuya Ward is jointly organizing a community-based international understanding educational program. In this paper, I introduce the program targeting the junior high school students of Shibuya Ward, Tokyo.